



# 白桜小だより

平成 28 年度 3 月号  
中野区立白桜小学校  
校長 宇賀神 佳子  
平成 29 年 3 月 1 日発行

## 子供たちの成長を見る

校長 宇賀神 佳子

日一日と昼の長さが長くなっているのを感じます。春がもうすぐそこまで来ているようです。桜の開花予想も、今月 23 日ごろと出ており、今から楽しみです。

さて学校では、大縄跳び大会に向けた練習が盛んに行われています。休み時間になると子供たちは校庭に出て、各学級ごとに長縄を回し始めます。学級の目標を 200 回、それ以上と定め、声を掛け合ってみんなで呼吸を合わせて懸命に跳んでいます。つまり子供がいてもそれを責めることはせず、ただひたすらにたくさん跳ぶことだけを考えて、直ぐ立て直しを図っています。そうした子供たちの姿を見ていると、風は未だ冷たいですが、心はずっと熱くなります。白桜の子供たちは、やはり確実に成長しています。

6 年生は卒業を控えたこの時期に、出版、記者、翻訳等、保護者の方のお仕事についてお話いただきました。実際に携わっていらっしゃる方に、子供たちの体験も交えて具体的に説明していただき、子供たちは将来の職業への期待を膨らませていました。ご多用の中、子供たちのために時間を割いてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

さらに先月 14 日には、パキスタン大使館から報道参事官 アシュファク アハマド カリルさんをはじめ関係のお客様を大勢お迎えし、5 年生の子供たちが交流をしました。パキスタンの自然や文化財等の説明をしていただいたあとで、パキスタンに関するクイズに答えたり、パキスタンの民族衣装を着せてもらったり、数々の工芸品を見せてもらったりしました。そうした交流の中で、パキスタンのクリケットチームとホッケーチームが国際的な試合で上位の成績を収めていることが分かりました。カリルさんが「クリケットを一緒にやってみよう」と誘ってくださり、何人かの子供がボールをバットで打ってみました。野球やティーボールとはまた違う趣があり、一緒に行って子供たちも大喜びでした。

最後の質問コーナーでは、子供たちから、自然や学校等について質問をしました。その一つに「イスラム教は戦うことに重きを置く宗教なのですか。」という質問がありました。国際社会の中で様々な問題をはらむテーマなので、聞いていた私たちも一瞬ドキッとしました。しかし、カリルさんは静かに落ち着いて「イスラム教の神様も皆さんが信じている神様と同様に、世界中の人々が平和に暮らせることを望んでいます。」と答えてくれました。そして「今日ここで皆さんと私が仲良く、楽しく過ごせたように、国が違っても、まず人と人が分かり合えることが平和への大きな一歩になると信じています。」と話されました。このお話に子供たちも私たちもとても大切なことを教えていただいたような気がしました。

そして改めて、白桜の子供たちが心を世界に開き、様々なことを吸収しようとしている、そんな息遣いを感じることができました。

子供たちの成長を多くの場面で気付くことができました。一歩ずつ、確実な歩みを子供たちと共に進めていきたいと考えます。今年度も本校教育活動に関して、保護者や地域の皆様から、多大なご理解ご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。ありがとうございました。